

『真夜中の動物園』ソーニャ・ハートネット／著 主婦の友社 (Y933.7/ハ)

第二次世界大戦中、ロマ(ロマニ語を話す人々)の兄弟のアンドレイとトマスが住んでいた村は、空襲を受けて廃墟と化してしまいます。暗い夜の中を幼い妹ウィルマを連れてさまよって歩くうちに、兄弟は小さな動物園にたどり着きます。そこにはオオカミやライオンなどの十数種類の動物がいましたが、驚いたことに動物たちは人間の言葉が話せるのです。そこで動物達はそれぞれ動物園に連れてこられた悲しいいきさつを、アンドレイは自分たちロマの一族をおそった恐ろしい出来事を語ります。深く考えさせられる本です。



眠る前のちょっとした時間で読める
短編はいかがでしょう？

『みじかい眠りにつく前に I 真夜中に読みたい10の話』
(全3巻) 金原瑞人／編 ジャイブ (Y913.6/カ)

Iは「いいしんじさん、魚住直子さん、恩田陸さん、梨原アリエさんなどの短編が収録されています。

IIは「昼下がりに読みたい10の話」

IIIは「明け方に読みたい10の話」がテーマとなっています。

いずれも短編でいろいろな作家さんのお話を楽しめます。

『夜が選ばれてくるまでに』

時雨沢恵一／文 黒星紅白／絵 メディアワークス (Y913.6/シ)

『キノの旅』で人気のあるコンビのオールカラー本です。

水彩画で描かれたやさしい絵とちいさなお話が詰まった絵本のような一冊。

他にも『お茶が選ばれてくるまでに』と『答えが選ばれてくるまでに』があります。



YAブックリスト 第22号 平成25年9月発行

稲城市立中央図書館

稲城市向陽台4-6-18 ☎042-378-7111

<http://www.library.inagi.tokyo.jp>

稲城市立図書館

ヤングアダルト

BOOK LIST



秋の夜長に おすすめの本 特集

朝晩が涼しくなって秋の気配を感じるようになってきましたね！
今回はそんな秋の夜長にオススメの本として「夜」や「闇」をテーマにした本をご紹介します。

日に日に夜が長くなっていく時期、本を読んで夜の時間を楽しんでみてはいかがでしょう？

まずは秋の夜空の本からご紹介！

『星と宇宙がわかる本 ③星を探る ～星の観察とさまざまな天体～』
縣秀彦／監修 学研教育出版 (Y440/ア) (全4巻)



寒くなく、外でゆっくりと星をみられるこの時期は星の観察にピッタリ！

今の時期は一晩で夏、秋、冬の星座を見ることができるそうです。
この本は四季の星座から星の動き、星座早見盤の作り方などが紹介されています。本を片手に星の観察をしてみませんか？

- 1巻 太陽を探る ～太陽の動きとすがた・日食～
- 2巻 月を探る ～月の動きとすがた・月食～
- 4巻 宇宙を考える ～太陽系と宇宙の広がり～

『ナショナルジオグラフィック世界の国 スウェーデン』
 チャールズ・フィリップス／著 ほるぷ出版 (Y302/ナ)

世界には真夜中でも暗くならない「白夜（びやくや）」という現象が起こる国があります。

この状態が続く「極夜（きょくや）」と呼ばれる時期はオーロラがきれいにみられるそうです。

そんな国を紹介した1冊です。文化や自然、歴史なども学べます。

また、ナショナルジオグラフィックのシリーズは図書館にたくさんあります。

全国制覇に挑戦してみてください。



『生きものは昼夜をよむ 光周性のふしぎ』 沼田英治／著 岩波書店 (Y468.2/ヌ)

「生物が日の長さに対応する性質」を「光周性（こうしゅうせい）」と言うそうです。

私たちは昼に活動をして夜になると休みます。それは私たちの体の中に「活動する時間帯と休息する時間帯を決めている」からで、同じようにほとんど全ての生物はおよそ一日で一回りする生物時計を体の中にもっているそうです。昆虫や植物も生きていくために環境の変化に応じて体内の仕組みを変えていきます。では生物はどのようにしてそれを感知するのか？自身の研究人生などを含め、その謎を解説した本です。



『爆笑問題のニッポンの教養 深海に四〇億年前の世界を見た！』

太田光、田中裕二、高井研／著 講談社 (Y699.6/オ)

地球最後の秘境と呼ばれている深海。水深3000メートルになると水温は2度、光すら届かなくなります。

そんな闇の中に生きる奇妙な生物たち。40億年前、全生物の生命の起源が誕生したそうです。その秘密に迫る生物学者の高井さんと爆笑問題の2人が大激論する本です。

深海生物の興味深い話（光が届かないのでカニは基本的に白いなど）から深海を潜る潜水艇のお話など、深海についておもしろく学べる一冊です。



『夜のスイッチ』レイ・ブラッドベリ／文 マデリン・ゲキエア／絵
 北山克彦／訳 晶文社 (Y726.6/ブ)



暗闇が怖くて、夜が嫌いな男の子がいました。もちろん夜は一晚中部屋の明かりをつけて過ごします。

夜、外に出ることもできず、夏の夜の芝生で遊ぶほかの子供たちを羨ましく思いながらも、ひとりぼっちで部屋に閉じこもっていたある晩、ダークと名乗る女の子がやってきてこう言います。「わたしが（夜）にひきあわせてあげる」

ダークに連れられて見る夜の世界に次第に男の子の暗闇への恐怖も変わってきて…

考え方を变えるだけで今まで気が付かなかった世界が広がることを教えてくれる絵本です。

『折りの虚月』高里雑奈／著 講談社 (Y913.6/タ)

「神無月の夜、虚月（三日月）の下で儀式を行うと願いが叶う」という秘密の言い伝えがある聖アステール女学院。虚月の深夜、校舎に忍び込んだ女子高生たちは儀式に必要な「三つの鍵」である「睿智」「願い」「信頼」を探しはじめます。

そんな彼女たちに起こる幾つかの不可思議な事件…。一人増えたメンバー、図書室の本の間に隠されていた手紙の謎など…。そして彼女たちの心に秘めていた願いとは？

学園ファンタジーです。



『ミッドナイターズ ①真夜中に生まれし者』(全3巻)

スコット・ウエスターフェルド／著 金原瑞人・大谷真弓／訳
 東京書籍 (Y933.7/ウ)



アメリカのピクスビーという町に引っ越してきたジェシカ。夜中に突然雨の音がやんで目を覚ますと町中が凍りついたように時間が止まっていました。それは「ブルータイム」いう真夜中の一時間。

「ミッドナイター」と呼ばれる特殊能力を持った人間と闇の生き物だけが活動する時間。「ブルータイム」に入ることができたジェシカは昔から続く闇の生き物と人間との戦いに巻き込まれていきます。

ジェシカの隠れた能力とは？スピード感のある描写とバトルにどきどきする一冊です！